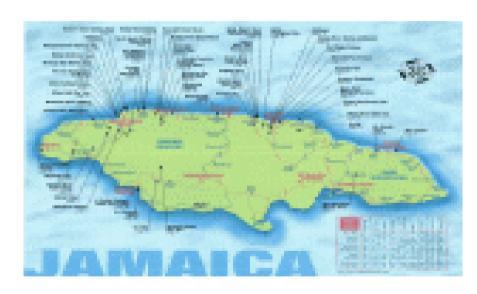


# ジャマイカ任地での活動 スクールオブホープ ポートアントニオ校

#### 知的障害養護学校(28名) ろう学校(7名)





### 作業学習1



### はりこ~新聞紙を利用して~





### 作業学習2

#### (重度重複障害児童・生徒の指導)

### リサイクルペーパー~使い古した紙を利用して~





### (重度重複障害児童・生徒の指導)

三角クラフト ~雑誌を利用して~



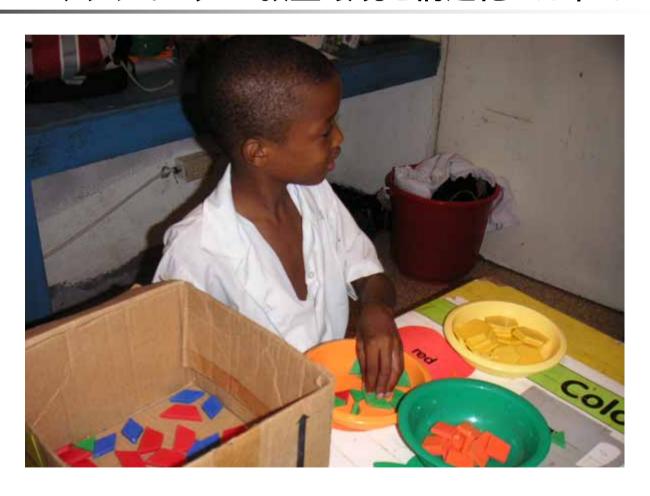


### 個別指導1



マッチング~教室環境を構造化した中で~





### 個別指導2

(自閉症児童・生徒の指導)

絵画指導~興味関心のある活動を生かして~







### 個別指導3

### (自閉症児童・生徒の指導)

編み物・三角クラフト ~単純作業の繰り返しを利用して~



## 図画工作の指導1

### チーム・ティーチング













### 図画工作の指導3

~バス停に壁画(人物画)~



## 作品展示·販売会

作業学習や個別指導、図画工作の指導を通して作った作品







### 教師・保護者向けのワークショップ

~ 学校と家庭の連携つ(リ~





# スペシャル・オリンピック





### 異文化交流会

### ~ ジャマイカと日本の文化 ~



# 現地教員向けのワークショップ



### ジャマイカ養護教育の問題点

- 教育的アプローチの問題 (教授法による教育方法一暗記、模倣)
- 教育を受ける機会の減少 (国語と数学への重点化、情操教育の削減)
- 教師のアイディア不足、教材の不足 (単調な活動の繰り返し)

### ワークショップの目的

- (1)児童生徒主体の授業を展開することで、児童生徒が生き生きと活動する様子が見られるようになり,意欲的に活動できるようにする。
- (2)教員が障害についての理解を深め、より適切 な指導を行うことができるようにする。
- (3)教員に対してモデル授業を展開することにより, 効果的な教材教具の活用法等の習得、教員の 指導力向上を図る。

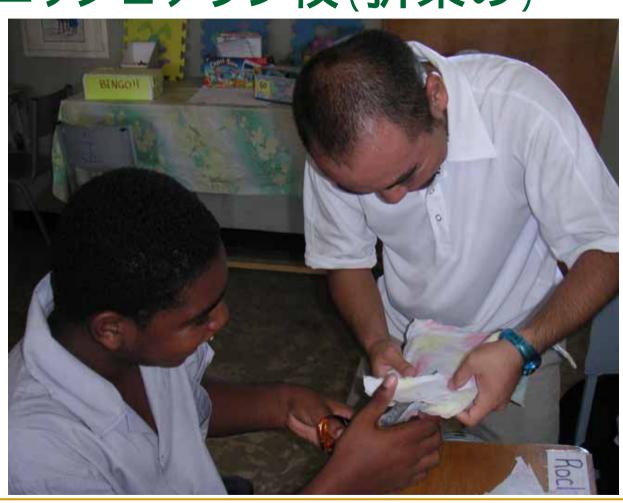
### ワークショップの内容

- 1 チーム·テーチングによる模擬授業 (図画工作を中心とした情操教育の授業)
- 2 日本の教育システムの紹介、教材の紹介
- 3 図画工作のアイディア提供(体験)
- (対象)隊員の任地で勤務する教師 首都に勤務する教師(10名程度)
- (回数)隊員の任地校(4回) 首都(3回)

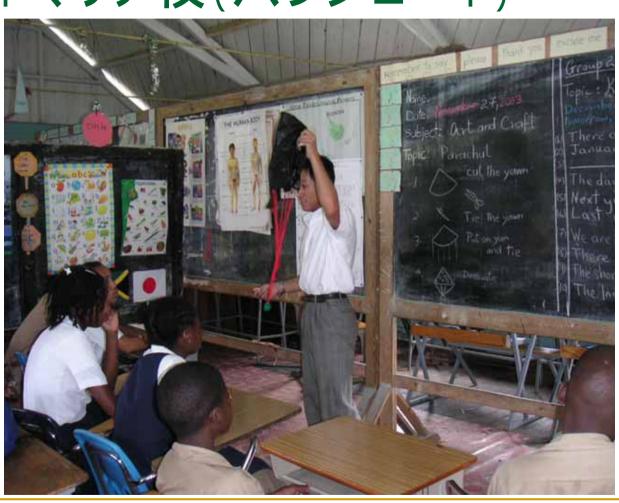
# 「図画工作」模擬授業1マンデビル校(新聞紙遊び)



## 「図画工作」模擬授業2 スパニッシュタウン校(折染め)



# 「図画工作」模擬授業3ポートマリア校(パラシュート)



## 「図画工作」模擬授業4 ポートアントニオ校(はりこ)





## 「図画工作」模擬授業5~7 首都 キングストン校(三角クラフト)





### ワークショップの結果

- JAMRとの連携が深まった。
- 日本の教育方法(チーム・テーチング)が取り入れられた。
- 養護教育の課題が明確になった。

教員の児童生徒の障害に対する理解をより促すこと。

児童生徒の実態に応じた支援を展開し、教材教具 を効果的に活用すること。

児童生徒の実態に応じた教育課程を編成すること。

### 公式「自閉症児者のためのワークショップ

#### (対象)

自閉症児童生徒(10名)保護者(10名) 担任、地方と首都校のスーパーバイザー(10名) (内容)

- 5回の段階を踏んだ、継続的なワークショップ
- 1 模擬授業
- 2 「自閉症」に関する講義(障害特性、実態把握、指導方法、 個別の指導計画の作成、教材の工夫など)
- 3 研究授業(最終回) 現地の教員が4回のワークショップを踏まえて、最後に授業を展開する。
- 4 評価、認定証授与

# 自閉症児者のためのワークショップパート1(2004.10.7) 小麦粉粘土と形遊び





### 自閉症児者のためのワークショップ パート2(2004.11.4) 色のマッチングと形合わせ



# 自閉症児者のためのワークショップパート3(2004.12.9) ステンシルとクリスマスツリー作り





### 自閉症児者のためのワークショップ パート4(2005.1.13) 体の部位を知ろう(マッチングと着せ替え)





### 自閉症児者のためのワークショップ 最終回(2005.2.17) 現地教員による研究授業





## 認定証授与式



# 自閉症児者のためのワークショップ 結果と反省

- 障害の特性を把握することができたため、教育 課程の見直しの必要性が出てきた。
- 受身的な「ワークショップ」から実践・参加型の積極的な、質の高い「ワークショップ」の開催に努めるようになった。(児童生徒の実態に応じた教材づくり、指導内容や方法の検討、個別の指導計画の活用)

### 重度重複障害児·者施設における ワークショップ





#### ジャマイカの養護教育に対する意識調査の実施 (養護教育関係者·保護者対象)

- 1 設備や教材の不足
- 2 教育課程の見直しの必要性
- 3 教育関係者との連携が不十分
- 4 重度重複障害児者への支援が不十分

「プロジェクト デザイン マトリックス(PDM)」の作成 (添付資料) (Project Design Matrix about Special education in Jamaica)

今後の支援の方針を隊員で検討し、JAMR、そして国際協力機構事業団(JICA)の再検討のもとPDMを作成した。

### 今後のジャマイカ養護教育への支援

- 1 継続したワークショップの開催を通して、教材のアイディア提供、環境や設備の構造化を図ること。
- 2 障害の特性を把握した教育課程について、見直し、検討すること。
- 3 隊員や中心となるジャマイカの教育関係者がチームを 組んで地方に出向いて「ワークショップ」を開催すること。
- 4 首都に養護教育の専門家を派遣し、常にJAMRや教育 省と連携し、さらに重度重複障害児者への支援にも取り 組んでいくこと。

### 協力隊に参加して・・・



- ・日本から海外に出てみて 感じたこと
- ・日本とジャマイカの養護学 校を比較して考えたこと
- ·これから、どんな活動を日本で取り組んでいきたいか?

## ありがとうございました!

